

2026年5月1日

岡部昌平

第390回山口西田読書会のプロトコル（2026年4月4日開催／同5月2日配付）

【テキスト】

旧全集の第四巻後編「知るもの」四の第3段落、349頁13行目（級下げ部分の最初）「私は後に具体的一般者の完全形を推論式的一般者と考へて論じて居る所と」から350頁級下げ部分の終わり「矛盾を包む一般者は推論式的一般者なるが故である。」までを読了。

【キーセンテンス】

而してかゝる大語的限定面が単なる肯定面であった場合は、尚真に推論式的一般者の述語面といふことができない、それが矛盾的統一面であった時、推論式的一般者の述語面としてその時間的な内容を完全に映すことができる。

【問い】

判断的一般者の立場を推論式的一般者の立場で説明するとき、その眼目は単に超越的述語面が概念で限定されるのではなく、肯定面と矛盾的統一面を分けた上で、矛盾的統一面における限定が強調される点にあるという理解でよいか。